



ARIS Risk & Compliance Manager

オペレーショナル リスク管理システム表記規則マニュアル

バージョン 9.8 – Service Release 4

2016 年 4 月

This document applies to ARIS Risk & Compliance Manager Version 9.8 and to all subsequent releases. Specifications contained herein are subject to change and these changes will be reported in subsequent release notes or new editions.

Copyright © 2010 - 2016 [Software AG](#), Darmstadt, Germany and/or Software AG USA Inc., Reston, VA, USA, and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors.

The name Software AG and all Software AG product names are either trademarks or registered trademarks of Software AG and/or Software AG USA Inc. and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors. Other company and product names mentioned herein may be trademarks of their respective owners. Detailed information on trademarks and patents owned by Software AG and/or its subsidiaries is located at <http://softwareag.com/licenses>.

Use of this software is subject to adherence to Software AG's licensing conditions and terms. These terms are part of the product documentation, located at <http://softwareag.com/licenses> and/or in the root installation directory of the licensed product(s).

This software may include portions of third-party products. For third-party copyright notices, license terms, additional rights or restrictions, please refer to "License Texts, Copyright Notices and Disclaimers of Third Party Products". For certain specific third-party license restrictions, please refer to section E of the Legal Notices available under "License Terms and Conditions for Use of Software AG Products / Copyright and Trademark Notices of Software AG Products". These documents are part of the product documentation, located at <http://softwareag.com/licenses> and/or in the root installation directory of the licensed product(s).

目次

1	はじめに	1
2	テキストの表記規則	2
3	本マニュアルの内容	3
3.1	目的および範囲	3
4	ARIS 表記規則	4
4.1	モデリング レベルおよびモデル タイプ	4
4.1.1	モデリング レベルおよびモデル タイプの概要	4
4.1.2	リスクおよびプロセスの識別	5
4.1.2.1	プロセス モデル	5
4.1.2.2	レベル 1 でのプロセス モデリング	6
4.1.2.2.1	ファンクションとプロセス階層要素 (ARCM) の割り当て	7
4.1.2.3	レベル 2 でのプロセス モデリング	8
4.1.2.4	レベル 3 でのプロセスおよびリスク モデル作成 - イベント駆動プロセス連鎖図 (EPC)	9
4.1.3	企業の追加階層の文書化	10
4.1.3.1	規定階層	11
4.1.3.1.1	[用語] オブジェクトの属性割り当て	12
4.1.3.2	組織の階層	14
4.1.3.2.1	組織ユニット (ABA) と組織階層要素 (ARCM) の割り当て	15
4.1.3.3	リスク階層	17
4.1.3.3.1	リスク カテゴリ (ABA) とリスク カテゴリ (ARCM) の割り当て	19
4.1.3.4	アプリケーション システム タイプの階層	20
4.1.3.4.1	アプリケーション システム タイプ (ABA) と アプリケーション システム タイプの階層 (ARCM) の割り当て	21
4.1.4	ユーザーとユーザー グループの作成	22
4.1.4.1	役割と要員の割り当て	24
4.1.5	リスクの分析とリスク評価の構造	26
4.1.5.1	リスク	28
4.2	オブジェクトと関係の非アクティブ化	33

1 はじめに

ARIS のモデルを用いて業務プロセスと業務ファンクションを記録すると、(一貫性、複雑さの軽減、再利用性、評価の可能性、整合性など) さまざまな利点があります。

ただしこれは、ARIS Architect でのモデリングのメソッドおよび機能の規則と表記規則が順守されている場合のみ実行できます。これらのルールに従った場合にのみ、すべてのモデル化されたデータは ARIS Risk & Compliance Manager (ARCM) に転送されて、再利用することができます。

2 テキストの表記規則

各項目の表記規則について説明します。

- メニューアイテムやダイアログ ボックスなどの UI 用語は角括弧 ([]) で表記されます。
- ユーザーが入力する内容は、山括弧 (<>) で表示されます。
- 複数行から成る長いディレクトリ パスなどの、1 行から成る例のテキストは文字 ↵ により行の最後で分割されます。
- ファイルからの抽出テキストは、次のフォントで表示されます。

```
This paragraph contains a file extract.
```

3 本マニュアルの内容

以下の各セクションでは、説明ビュー、モデル タイプ、オブジェクト タイプ、関係タイプと接続線タイプ、および属性の使用に関する標準を説明します。

3.1 目的および範囲

目的: モデリング ガイドラインの仕様設計

本マニュアルに含まれないもの: ユーザーの文書

4 ARIS 表記規則

4.1 モデリング レベルおよびモデル タイプ

4.1.1 モデリング レベルおよびモデル タイプの概要

以下の図は、プロセス モデリングのレベル、およびそのレベルで使用が推奨されるプロセス モデル タイプを示しています。

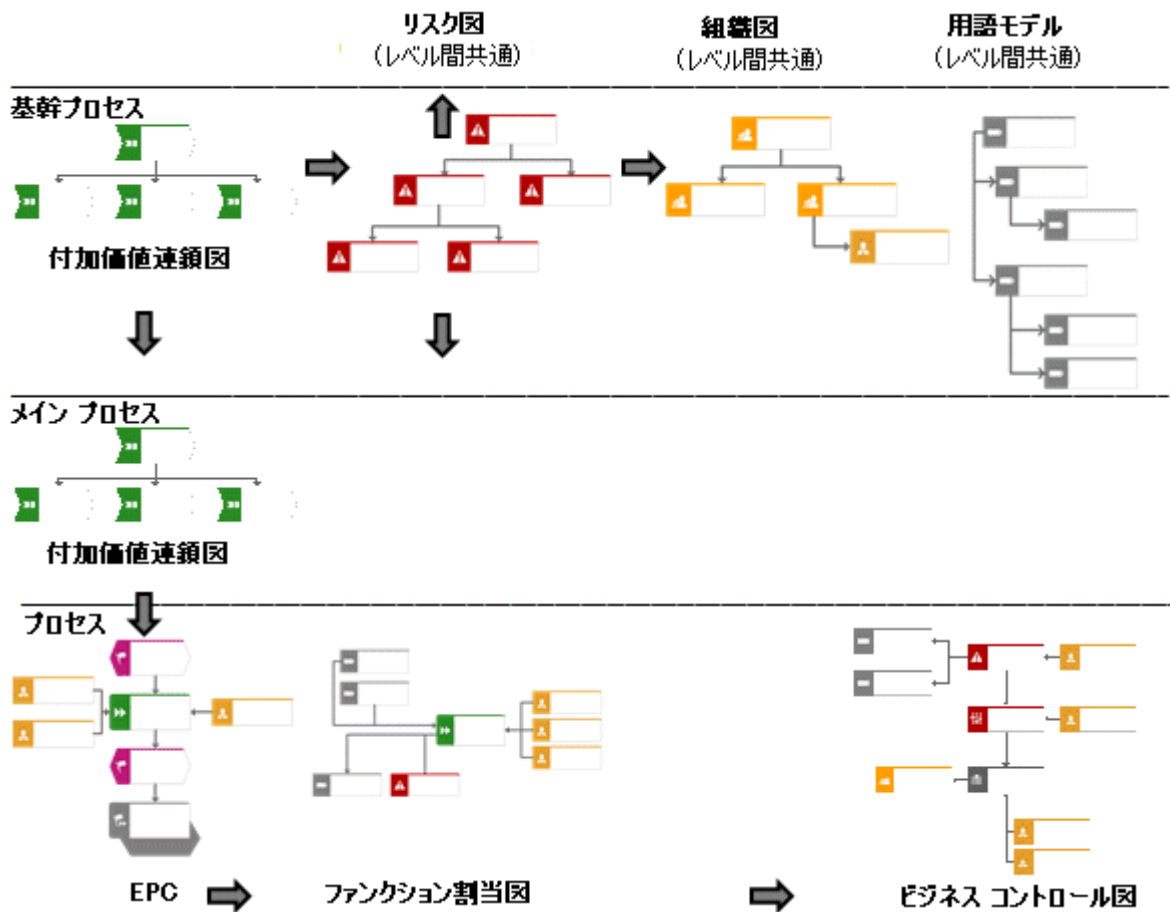


図 1: モデリング レベルおよびモデル タイプ

4.1.2 リスクおよびプロセスの識別

4.1.2.1 プロセス モデル

次のプロセス モデルは、プロセス ランドスケープ/プロセス階層を設定するために使用できます。

モデル名	モデル タイプ番号
付加価値連鎖図	12
EPC	13
ファンクション割当図	14
PCD	18
EPC (マテリアル フロー)	50
PCD (マテリアル フロー)	51
EPC (列表示)	134
EPC (行表示)	140
EPC (テーブル表示)	154
EPC (水平テーブル表示)	173
Enterprise BPMN collaboration diagram	272
Enterprise BPMN process diagram	273

次の章には、プロセス ランドスケープのモデル作成例が含まれます。

4.1.2.2 レベル 1 でのプロセス モデリング

概要プロセス モデルはレベル 1 の中心モデルです。このモデルは、[付加価値連鎖図] モデル タイプを使用してモデル化されます。この基幹プロセスの概要はエントリ モデルとして使用されます。



図 2: レベル 1 - 付加価値連鎖図

使用されるオブジェクト タイプは [ファンクション] (OT_FUNC) です。オブジェクト間の階層は、[プロセス指向的に上位にある] 接続線または [プロセス指向的に下位にある] 接続線を使用してマッピングします。

ARIS Risk & Compliance Manager では、使用できる階層のツリー構造は 1 つだけです。したがって、各ファンクションの上位ファンクションは 1 つしかありません。

次のモデル タイプは、VACD で 1 つのオブジェクト タイプにアサインできます。

オブジェクト タイプ	アサインされるモデル タイプ
ファンクション [付加価値連鎖]	VACD
ファンクション [付加価値連鎖]	ファンクション割当図

階層要素は、関連するファンクションごとに ARIS Risk & Compliance Manager で作成されます。例外: 最上位階層要素は既に ARIS Risk & Compliance Manager に存在しています。

4.1.2.2.1 ファンクションとプロセス階層要素 (ARCM) の割り当て

次の割り当ては [ファンクション] オブジェクトに適用できます。

ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
ファンクション	名前	AT_NAME	○	HIERARCHY	name	
				HIERARCHY	isroot	最上位階層要素に対してのみ「true」
				HIERARCHY	type	プロセス階層 (値 4)
ファンクション	説明/定義	AT_DESC	○	HIERARCHY	description	
				HIERARCHY	status	アクティブの場合、ステータスは「true」
ファンクション	サインオフ関連	AT_AAM_SIGN_OFF_RELEVANT	○	HIERARCHY	signoff	リスク マネジメントには関係なし
ファンクション	モデル リンク	AT_AAM_MOD_LINK		HIERARCHY	modellink	
				HIERARCHY	modelguid	ファンクションのオカレンスを含むモデルの GUID。最初に使用できるプロセス モデル (EPC、VACD など) が選択されます。
				HIERARCHY	model_name	モデル名 (上記参照)
ファンクション	オブジェクト リンク	AT_AAM_OBJ_LINK		HIERARCHY	objectlink	

ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
ファンクション	オブジェクトの GUID			HIERARCHY	objectguid	
				HIERARCHY	children	下位階層要素

*M 列では属性が必須項目であるかどうかが表示されます。

4.1.2.3 レベル 2 でのプロセス モデリング

付加価値連鎖図はレベル 2 のモデルとして使われます。レベル 2 は、メイン プロセスを表し、レベル 3 の下位プロセスのコンテキストをマッピングするために使用されます。



図 3: レベル 2 - 付加価値連鎖図

付加価値連鎖としてモデリングされる基幹プロセスに関しても、同様の規則が適用されます。

次のモデル タイプは、VACD でオブジェクト タイプにアサインできます。

オブジェクト タイプ	アサインされるモデル タイプ
ファンクション	EPC
ファンクション	ファンクション割当図

4.1.2.4 レベル 3 でのプロセスおよびリスク モデル作成 - イベント駆動プロセス連鎖図 (EPC)

EPC を使用して、企業のプロセスを記述することができます。この EPC は、実行される活動の論理的および時系列的な流れに基づいています。さらに、一連のファンクションおよびその結果としてのイベントも使用されます。このような簡略化したプロセスに、追加情報を含むほかのオブジェクト（組織ユニット、役職、役割、アプリケーション システムなど）を補足することができます。

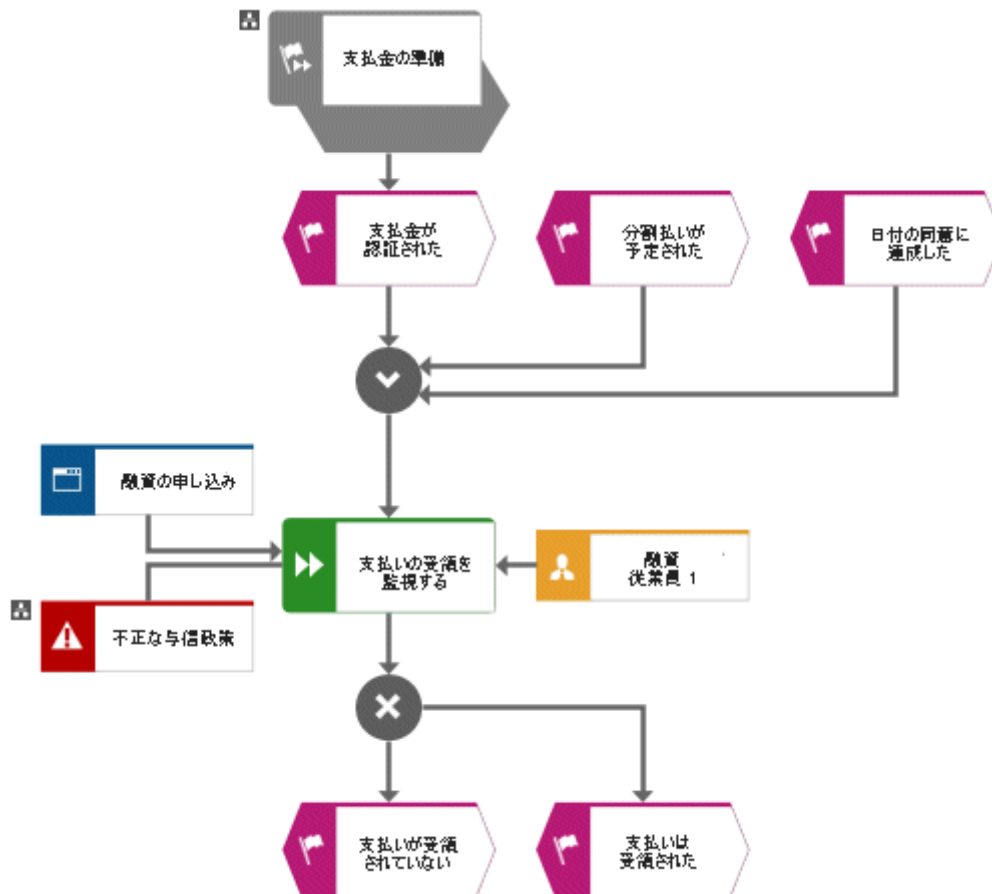


図 4: レベル 3 - イベント駆動プロセス連鎖図

次のモデル タイプは、EPC でオブジェクト タイプにアサインできます。

オブジェクト タイプ	アサインされるモデル タイプ
ファンクション	EPC
ファンクション	ファンクション割当図
リスク	EPC
リスク	ビジネス コントロール図
リスク	KPI 割当図

4.1.3 企業の追加階層の文書化

ARIS Risk & Compliance Manager に転送されるすべての階層に使用できるツリー構造は 1 つだけです。つまり、階層の各要素の上位アイテムは 1 つのみです。

4.1.3.1 規定階層

規定階層は、[用語] オブジェクト (OT_Tech_TRM) を使用して、ARIS Architect の用語モデルでモデル化されます。[規定] 属性は、一意に各規定 (API 名: AT_AAM_ANNUAL_ACCOUNTS_ITEM) を識別するために使用できます。オブジェクト間の階層は、[持つ] 接続線を使用してマッピングします。階層が ARIS Risk & Compliance Manager に転送される場合は、[エクスポート関連] モデル属性 (AT_AAM_EXPORT_RELEVANT) を設定する必要があります。

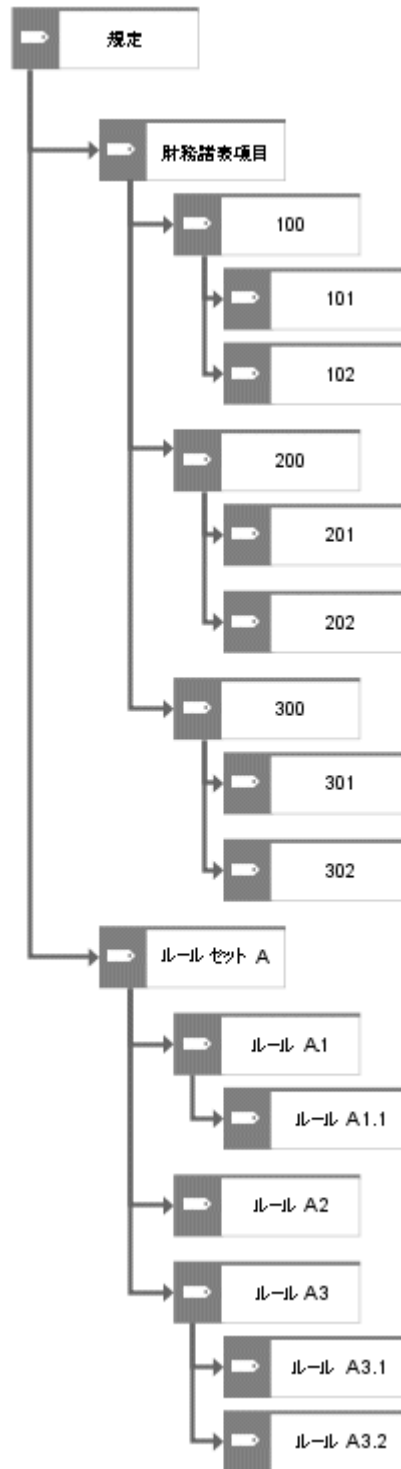


図 5: 規定階層構造

4.1.3.1.1 【用語】 オブジェクトの属性割り当て

次の属性割り当ては【用語】オブジェクトに適用できます。

ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
用語	名前	AT_NAME	○	HIERARCHY	name	
				HIERARCHY	isroot	最上位階層要素に対してのみ「true」
用語	概要説明	AT_SHORT_DESC		HIERARCHY	hnumber	
				HIERARCHY	type	規定階層（値 2）
用語	説明/定義	AT_DESC		HIERARCHY	description	
			○	HIERARCHY	status	アクティブの場合、ステータスは「true」
用語	サインオフ関連	AT_AAM_SIGN_OFF_RELEVANT	○	HIERARCHY	signoff	リスク マネジメントには関係なし
用語	モデル リンク	AT_AAM_MOD_LINK		HIERARCHY	modellink	
				HIERARCHY	modelguid	用語のオカレンスを含むモデルのGUID。最初に利用できる用語モデルが選択されます。
				HIERARCHY	model_name	モデル名（上記参照）
用語	オブジェクト リンク	AT_AAM_OBJ_LINK		HIERARCHY	objectlink	
用語	オブジェクトの GUID			HIERARCHY	objectguid	

ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
				HIERARCHY	children	下位階層要素

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

4.1.3.2 組織の階層

組織の階層は、[組織ユニット] オブジェクト (OT_ORG_UNIT) を使用して ARIS Architect の組織図でモデル化されます。オブジェクト間の階層は、[上位にある] 接続線を使用してマッピングされます。階層が ARIS Risk & Compliance Manager に転送される場合は、[エクスポート関連] モデル属性 (AT_AAM_EXPORT_RELEVANT) を設定する必要があります。



図 6: 組織階層構造

そのため、組織の階層要素は関連する組織ユニットごとに作成されます例外：最上位階層要素は既に ARIS Risk & Compliance Manager に存在しています。

4.1.3.2.1 組織ユニット (ABA) と組織階層要素 (ARCM) の割り当て

次の属性割り当ては [組織ユニット] オブジェクトに適用できます。

ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
組織 ユニット	名前	AT_NAME	○	HIERARCHY	name	
				HIERARCHY	isroot	最上位階層要素に対してのみ「true」
				HIERARCHY	type	組織階層 (値 = 3)
組織 ユニット	説明/定義	AT_DESC	○	HIERARCHY	description	
				HIERARCHY	status	アクティブの場合、ステータスは「true」
組織 ユニット	サインオフ関連	AT_AAM_SIGN_OFF_RELEVANT	○	HIERARCHY	signoff	リスク マネジメントには関係なし
組織 ユニット	モデル リンク	AT_AAM_MOD_LINK		HIERARCHY	modellink	
				HIERARCHY	modelguid	組織ユニットのオカレンスを含むモデルの GUID。最初に利用できる組織図が選択されます。
				HIERARCHY	model_name	モデル名 (上記参照)

ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
組織 ユニット	オブジェクト リンク	AT_AAM_OBJ_LINK		HIERARCHY	objectlink	
組織 ユニット	オブジェクトの GUID			HIERARCHY	objectguid	
				HIERARCHY	children	下位階層要素

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

4.1.3.3 リスク階層

ARIS Architect では、リスク カテゴリの階層は、[リスク] オブジェクト (OT_RISK) および [リスク カテゴリ] オブジェクト (OT_RISK_CATEGORY) を使用してリスク図でモデル化されます。リスクは、ここで分類できます。リスクをカテゴリの下位に配置し、関係タイプ [含む] を使用して、そのカテゴリをほかのカテゴリの下位に配置することもできます。リスクをほかのリスクの下位に配置することはできません。階層が ARIS Risk & Compliance Manager に転送される場合は、[エクスポート関連] モデル属性 (AT_AAM_EXPORT_RELEVANT) を設定する必要があります。

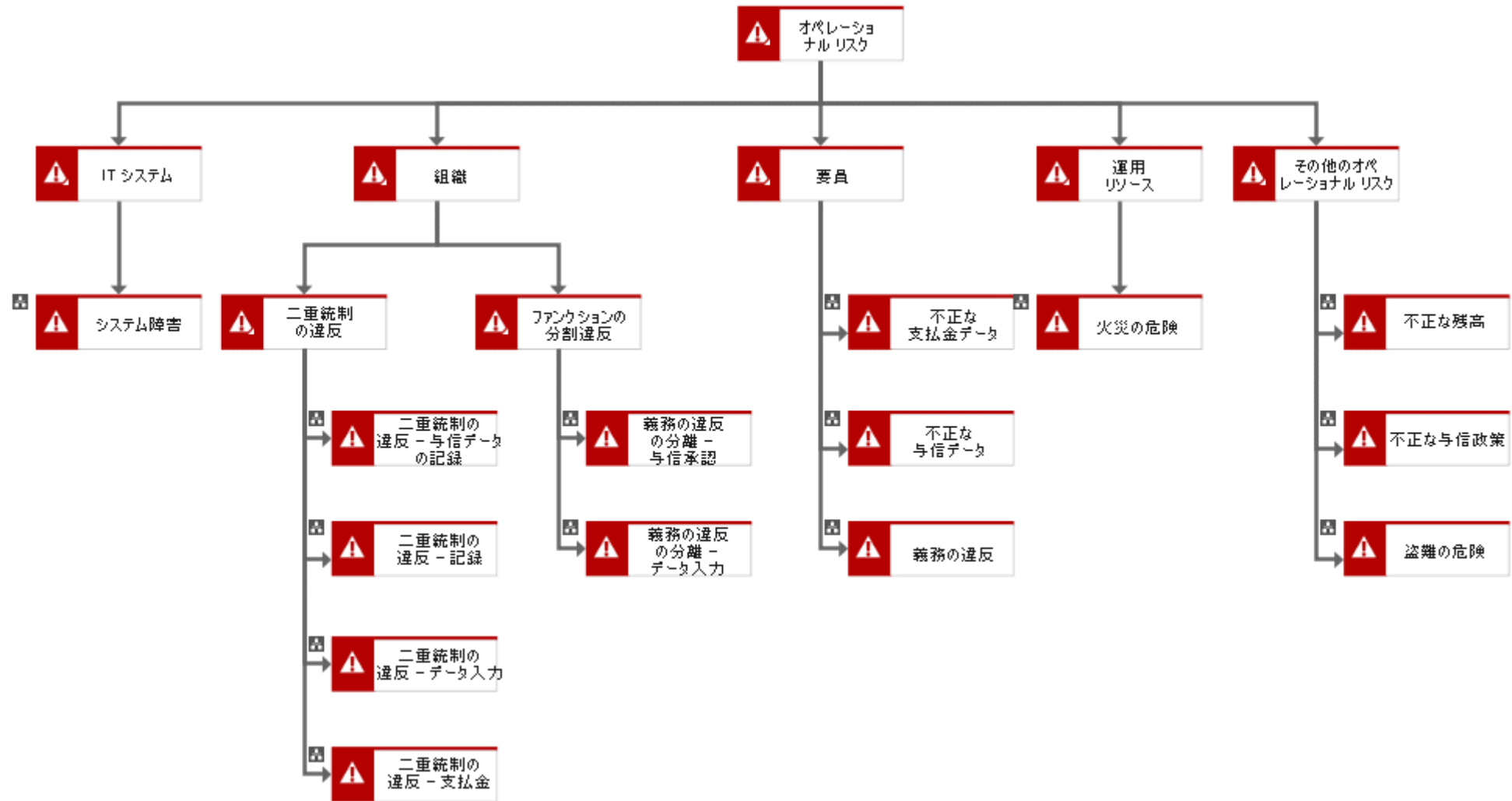


図 7: リスク階層構造

リスク カテゴリの階層要素は、関連するリスク カテゴリごとに ARIS Risk & Compliance Manager で作成されます。例外：最上位階層要素は既に ARIS Risk & Compliance Manager に存在しています。

4.1.3.3.1 リスク カテゴリ (ABA) とリスク カテゴリ (ARCM) の割り当て

次の属性割り当ては [リスク カテゴリ] オブジェクトに適用できます。

ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
リスク カテゴリ	名前	AT_NAME	○	HIERARCHY	name	
				HIERARCHY	isroot	最上位階層要素に対してのみ「true」
				HIERARCHY	type	リスク階層 (値 = 5)
リスク カテゴリ	説明/定義	AT_DESC	○	HIERARCHY	description	
				HIERARCHY	status	アクティブの場合、ステータスは「true」
リスク カテゴリ	モデル リンク	AT_AAM_MOD_LINK		HIERARCHY	modellink	
				HIERARCHY	modelguid	リスク カテゴリのオカレンスを含むモデルの GUID。最初に利用できるリスク図が選択されます。
				HIERARCHY	model_name	モデル名 (上記参照)
リスク カテゴリ	オブジェクト リンク	AT_AAM_OBJ_LINK		HIERARCHY	objectlink	
リスク カテゴリ	オブジェクトの GUID			HIERARCHY	objectguid	
				HIERARCHY	children	下位階層要素

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

4.1.3.4 アプリケーション システム タイプの階層

アプリケーション システム タイプの階層は、[アプリケーション システム タイプ] オブジェクト (OT_APPL_SYS_TYPE) を使用して、ARIS Architect のアプリケーション システム タイプ図でモデル化されます。オブジェクト間の階層は、[含む] 接続線を使用してマッピングします。階層が ARIS Risk & Compliance Manager に転送される場合は、[エクスポート関連] モデル属性 (AT_ AAM_EXPORT_RELEVANT) を設定する必要があります。



図 8: アプリケーション システム タイプ階層の構造

このように、各関連アプリケーション システム タイプに関してアプリケーション システム タイプ階層要素が ARIS Risk & Compliance Manager で作成されます。例外: 最上位階層要素は既に ARIS Risk & Compliance Manager に存在しています。

4.1.3.4.1 アプリケーション システム タイプ (ABA) と アプリケーション システム タイプの階層 (ARCM) の割り当て

次の属性割り当ては [アプリケーション システム タイプ] オブジェクトに適用できます。

ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
アプリケーション システム タイプ	名前	AT_NAME	○	HIERARCHY	name	
				HIERARCHY	isroot	最上位階層要素に対してのみ「true」
				HIERARCHY	type	アプリケーション システム タイプ階層 (値 = 6)
アプリケーション システム タイプ	説明/定義	AT_DESC	○	HIERARCHY	description	
				HIERARCHY	status	アクティブの場合、ステータスは「true」
アプリケーション システム タイプ	モデル リンク	AT_AAM_MOD_LINK		HIERARCHY	modellink	
				HIERARCHY	modelguid	アプリケーション システム タイプのオカレンスを含むモデルの GUID。最初に利用できるアプリケーション システム タイプ図が選択されます。
				HIERARCHY	model_name	モデル名 (上記参照)
アプリケーション システム タイプ	オブジェクト リンク	AT_AAM_OBJ_LINK		HIERARCHY	objectlink	
アプリケーション システム タイプ	オブジェクトの GUID			HIERARCHY	objectguid	
				HIERARCHY	children	下位階層要素

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

4.1.4 ユーザーとユーザー グループの作成

ユーザーおよびユーザー グループは、[要員] (OT_PERS) および [役割] (OT_PERS_TYPE) のオブジェクトを使用して ARIS Architect の組織図でモデル化されます。

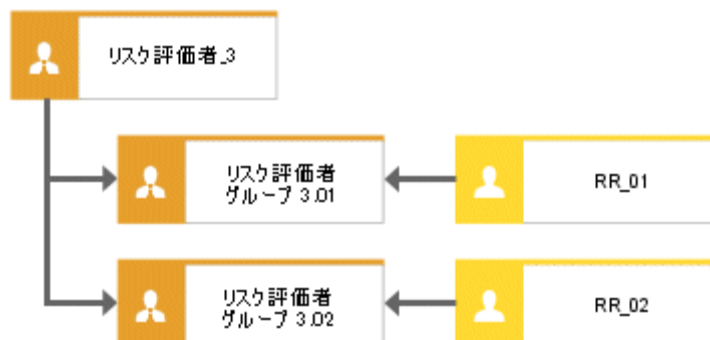


図 9: ユーザーおよびユーザー グループの構造

上位役割 [リスク評価者_3] によって、ARIS Risk & Compliance Manager では下位役割が果たす役割が指定されます。これらの役割は、[汎化結果である] 接続線を使用して接続されます。[リスク評価者グループ 3.01] は [リスク評価者_3] の汎化の結果です。作成されるグループの役割とレベルは上位役割名により定義されます。<役割>_<レベル>、つまり [リスク評価者_3] > 役割: リスク評価者、レベル: 3 (またはオブジェクト固有) になります。上位役割 (この場合では、[リスク評価者_3]) には、ARIS Risk & Compliance Manager ではユーザー グループは作成されません。

以下がさまざまなレベルに適用されます。

- レベル 1: クライアント汎用
つまり、権限が複数クライアントに割り当てられます。
- レベル 2: クライアント固有
つまり、権限が特定のクライアントに割り当てられます。
- レベル 3: オブジェクト固有
つまり、方針、リスク、または統制などの特定のオブジェクトに権限が割り当てられます。

上記の例では、[リスク評価者グループ 3.01] ユーザー グループは、[リスク評価者] の役割およびレベル「3」(オブジェクト固有の権限) を使用して ARIS Risk & Compliance Manager で生成されます。さらに、ユーザー ID が「RR_01」のユーザーが生成されます。

役割名 (ARCM) と役割 (ABA) の対応一覧

次の割り当ては、ARIS Risk & Compliance Manager での役割と ARIS Architect で使用される名前に適用されます。その他の役割については、他の表記規則マニュアルで説明しています。

役割 (ARCM)	役割 (ABA)	注意
roles.riskauditor	リスク監査人	レベル 1 および 2
roles.riskmanager	リスク担当者	レベル 1、2、および 3
roles.riskreviewer	リスク評価者	レベル 3 のみ
roles.riskowner	リスク所有者	レベル 3 のみ

4.1.4.1 役割と要員の割り当て

役割 (ABA) とユーザー グループ (ARCM) の割り当て

次の割り当てを [役割 (ユーザー グループ)] オブジェクトに適用できます。

ABA 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
名前	AT_NAME	name	○	ユーザー グループ名は最大 250 文字に制限されています。
説明/定義	AT_DESC	description	-	
役割	-	role	○	[役割] と [役割レベル] の値は、上記のとおり指定されます。
役割レベル	-	rolelevel	○	
ユーザー	-	groupmembers	-	[ユーザー] は要員と役割間の [実行する] 接続線によって指定されます。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

要員 (ABA) とユーザー (ARCM) の割り当て

古いモデル作成の規則に基づいた既存のデータベースは、提供されている ARCM user migration.arx レポートを使用して移行できます。姓と名の 2 つの属性は同じ属性から派生するため、結果を確認する必要があります。

次の割り当ては [要員 (ユーザー)] オブジェクトに適用できます。

ABA 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
ログイン	AT_LOGIN	Userid	○	ユーザーのユーザー ID は最大 250 文字に制限されています。
名	AT_FIRST_NAME	firstname	○	
姓	AT_LAST_NAME	lastname	○	
		name	-	姓と名の組み合わせ。
説明/定義	AT_DESC	description	-	
電子メール アドレス	AT_EMAIL_ADDR	email	○	
電話番号	AT_PHONE_NUM	phone	-	
		clients	-	[クライアント] フィールドは、データのインポート先のクライアントによって指定されます。
		substitutes	-	[代理] フィールドは、手動でのみ設定されます。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

4.1.5 リスクの分析とリスク評価の構造

プロセスで識別されたリスクについては、評価に関係のある責任とオブジェクトの定義は KPI 割当図で行うことができます。つまり、どのリスクがどの組織ユニットに影響を及ぼすかといった、企業階層への影響を記録することができます。

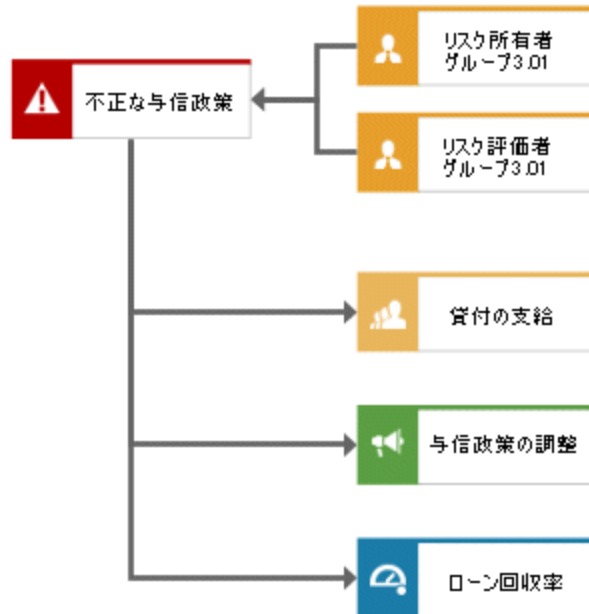


図 10: KPI 割当図の構造

リスク所有者とリスク評価者の割り当て以外のすべての割り当ては、オプションです。

リスク オブジェクトの関係

次の接続線が KPI 割当図のオブジェクトで使用できます。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注意
リスク	技術的責任を持つ	役割	この接続線によって、リスク所有者、リスク担当者、およびリスク評価者への関係が作成される
リスク	影響する	組織ユニット	この接続線によって、組織階層への関係が作成される
リスク	影響する	用語	この接続線によって、規定階層への関係が作成される[リスク タイプ] リスク属性に[財務報告] も選択されている場合は、必須の関係になる。
リスク	影響する	アプリケーション システム タイプ	この接続線によって、アプリケーション システム タイプの階層への関係が作成される
リスク	測定方法である	KPI インスタンス	この接続線によって、KPI への関係が作成される。現在のところ、ARCM には転送できない。
リスク	影響を受ける	タスク	この接続線によって、措置への関係が作成される。現在のところ、ARCM には転送できない。

4.1.5.1 リスク

リスクは、[リスク] オブジェクト (OT_RISK) を使用して ARIS Architect でモデル化します。ARIS Risk & Compliance Manager では、[エクスポート関連] 属性が設定されているリスクごとにリスクが作成されます。次の割り当ては [リスク] オブジェクトに適用できます。

ABA オブジェクト	ABA 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
リスク	名前	AT_NAME	○	RISK	name	
リスク	リスク ID	AT_AAM_RISK_ID		RISK	risk_id	
リスク	リスク タイプ	AT_AAM_RISK_TYPE_FINANCIAL_ REPORT AT_AAM_RISK_TYPE_COMPLIANCE AT_AAM_RISK_TYPE_OPERATIONS AT_AAM_RISK_TYPE_STRATEGIC	○	RISK	risktype	値が「true」の場合、ARCM で列挙が設定される。
リスク	説明/定義	AT_DESC	○	RISK	description	
			○	RISK	risk_function	ファンクションへの接続線によって指定され、プロセス階層要素への対応するリンクが ARCM に保存される。
			(○)	RISK	financial_statement	用語への接続線によって指定され、規定階層要素への対応するリンクが ARCM に保存される。[リスク タイプ] が [財務報告] の場合のみ必須。
リスク	影響	AT_AAM_IMPACT	(○)	RISK	impact	[リスク タイプ] が [財務報告] の場合のみ必須。

ABA オブジェクト	ABA 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
リスク	確率	AT_AAM_PROBABILITY	(○)	RISK	probability	[リスク タイプ] が [財務報告] の場合のみ必須。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかが表示されます。

リスク (ABA) とリスク (ARCM) の割り当て

ABA オブジェクト	ABA 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
リスク	リスク カタログ 1	AT_AAM_RISK_CATALOG_1		RISK	risk_catalog1	
リスク	リスク カタログ 2	AT_AAM_RISK_CATALOG_2		RISK	risk_catalog2	
リスク	タイトル 1 およびリンク 1 ~ タイトル 4 およびリンク 4 まで	AT_TITL1 および AT_EXT_1 など。		RISK	documents	文書 (O_10) が タイトルとリンクから ARCM で生成され、リスクに接続される。
				RISK	risk_owner_group	役割への接続線によって指定され、リスク担当者への対応するリンクが ARCM に保存される。

ABA オブジェクト	ABA 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
リスク	アサーション	AT_AAM_ASSERTIONS_EXIST_OCCURRENCE AT_AAM_ASSERTIONS_COMPLETENESS AT_AAM_ASSERTIONS_RIGHTS_OBLIGATIONS AT_AAM_ASSERTIONS_VALUATION_ALLOCATION AT_AAM_ASSERTIONS_PRESENTATION_DISCLOSURE AT_AAM_ASSERTIONS_NA	(○)	RISK	assertions	設定されている値に応じて、ARCM で列挙が設定される。値の依存性が存在する。最初の 5 つの値は、最後のエントリと組み合わせて発生できない。[リスク タイプ] が [財務報告] の場合のみ必須属性。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

リスク マネジメント関連のマークがリスクに付けられている場合は、次の割り当て (表 14 および 15) が ARIS Risk & Compliance Manager のみに転送されます。

ABA オブジェクト	ABA 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
リスク	リスク マネジメント関連	AT_GRC_RISK_MANAGEMENT_RELEVANT	○	RISK	risk_management_relevant	
リスク	評価アクティビティ	AT_GRC_ASSESSMENT_ACTIVITIES	○	RISK	assessment_activities	評価ステップを説明する
リスク	評価の頻度	AT_GRC_ASSESSMENT_FREQUENCY	○	RISK	assessment_frequency	リスク評価が自動的に生成される頻度を定義する

ABA オブジェクト	ABA 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
リスク	場合に応じた評価許可	AT_GRC_EVENT_DRIVEN_ASSESSMENTS_ALLOWED	○	RISK	event_driven_allowed	アドホック評価が許可されるかどうかを示す。評価頻度が [場合に応じる] に設定されている場合は、ABA から ARCM へのインポート時に自動的に「true」に設定される。
リスク	実行期限 (単位: 日)	AT_GRC_RISK_ASSESSMENT_DURATION	○	RISK	assessment-duration	リスク評価の実行期間を指定する
リスク	リスク評価の開始日	AT_GRC_START_DATE_OF_RISK_ASSESSMENTS	○	RISK	assessments_startdate	リスク評価の生成が開始される日付を指定する
リスク	リスク評価の終了日	AT_GRC_END_DATE_OF_RISK_ASSESSMENTS		RISK	assessments_enddate	リスク評価の生成が終了される日付を指定する

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

リスク (ABA) とリスク (ARCM) の割り当て

ABA オブジェクト	ABA 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
リスク		–	○	RISK	risk_assessment_owner_group	役割への接続線によって指定され、リスク所有者への対応するリンクが ARCM に保存される。
		–	○	RISK	risk_reviewer_group	役割への接続線によって指定され、リスク評価者への対応するリンクが ARCM に保存される。
リスク		–		RISK	risk_category	リスク カテゴリへの接続線によって指定され、リスク階層要素への対応するリンクが ARCM に保存される
リスク		–		RISK	organizational_unit	組織ユニットへの接続線によって指定され、組織階層要素への対応するリンクが ARCM に保存される。
		–		RISK	application_system_type	アプリケーション システム タイプへの接続線によって指定され、アプリケーション システム タイプの階層要素への対応するリンクが ARCM に保存される

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

4.2 オブジェクトと関係の非アクティブ化

ARIS Risk & Compliance Manager のオブジェクトと関係は、変更を追跡できるようにするためバージョン管理されます。そのため、ARIS Risk & Compliance Manager のオブジェクトと関係は非アクティブにされ、削除されません。つまり、対応するデータ アイテムは非アクティブになり、データベースからは削除されません。

インポートによって ARIS Risk & Compliance Manager でオブジェクト/関係を非アクティブにするには、対応するように ARIS Architect でマークする必要があります。これを実行するには、[非アクティブ] (AT_DEACT) 属性を使用します。この属性はオブジェクトと接続線の両方に設定できます。属性が設定されると、オブジェクトまたは接続線は次にインポートを実行する際に非アクティブになります。

もちろん、これが実行されるのは、ARIS Architect エクスポート ファイルにオブジェクトと関係が含まれている場合のみです。ARIS Risk & Compliance Manager へのインポートが正常に実行されたら、ARIS Architect でオブジェクト/接続線を削除できます。インポートが実行される前にオブジェクト/接続線が ARIS Architect で削除された場合は、これらを ARIS Risk & Compliance Manager で手動で非アクティブにできます。